

(様式第4号)

上田市健康づくり推進協議会 会議概要

1 審議会名	上田市健康づくり推進協議会
2 日時	令和5年10月23日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	宮下会長、滝沢(陽)副会長、今村委員、木島委員、関委員、滝沢(清)委員、田中(由)委員、中村委員、野口委員、渡邊委員
5 市側出席者	室賀健康こども未来部長、山口障がい者支援課長、西嶋高齢者介護課長、町田健康推進課長、櫻井スポーツ推進課長、上原生涯学習・文化財課長、小場福祉課庶務施設係長、井澤健康推進課幸政策担当係長、戸谷健康推進課保健予防担当係長、川口健康推進課母子・精神保健担当係長、片田健康推進課母子・精神保健担当係長、宮島健康推進課丸子地域健康支援担当係長、滝澤健康推進課真田地域健康支援担当係長、中沢健康推進課武石地域健康支援担当係長、佐口国保年金課保健事業係長、中沢保育課保育担当係長、高橋子育て・子育て支援課子育て・子育て支援担当係長、加々井学校教育課学校教育担当係長、内藤中央公民館次長、健康推進課小林主査、健康推進課笹井主査、健康推進課佐々木主任、健康推進課中村管理栄養士
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	2人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年10月26日

協議事項等

1 開会 (事務局)
2 あいさつ (室賀健康こども未来部長)
3 協議事項
(1) 第四次上田市民健康づくり計画 (案) について
ア 分野別の健康施策の現状と課題、今後の展開について
○事務局から説明
(ア) 健康管理分野
事務局から配布資料、健康管理分野の現状と課題、目標、市民の取組、市の取組の概要について説明
(イ) 身体活動・運動分野
事務局から身体活動・運動分野の現状と課題、目標、市民の取組、市の取組の概要について説明
・(ア)、(イ) についての質疑
(委員) 健康管理分野で特定健診受診率が目標に届いていないとの事だが、市民に対する啓発が重要である。具体的にどのように考えているか。
また、特定健診の他に長寿健診も行っているが、障がい者や後期高齢者等の施設入所の方に対する訪問による健診についての現状と、取り組みについてどのように考えているか。
(事務局) 特定健診は年度初めに対象者全員に受診券を送付している。また、初めて国民健康保険に加入し、特定健診の対象になった方や継続した健診受診がない方に保健師や管理栄養士が電話や訪問を行っている。年度末に健診未受診者には業者委託による受診勧奨の通知発送も行っている。

(会 長) 長寿健診など来院、来所できない方へのアプローチについてはどのように考えているか。
(事務局) 特定健診、若年健診、長寿健診については年齢によって実施団体、保険者等が異なっている。上田市が実施している特定健診は 40～74 歳の国民健康保険加入者が対象となっており、国の受診率の目標を下回っている状況である。年度初めに全対象者に受診券の送付に加えて昨年度から業者委託による受診勧奨を実施しており、状況に合わせて電話や訪問を行っている。

長寿健診については、75 歳以上が対象となっているが、すでに生活習慣病等がかかりつけ医等に定期受診している方が 8 割程度いる状況がある。医療機関と連携しながら検討していきたい。

若年健診については、30～39 歳の全市民が対象で、乳幼児健診などの機会や様々な媒体を使用しながら受診勧奨をすすめている。

(委 員) 訪問での健診について質問をさせていただきたい。若年者や障がい者、後期高齢者など様々なライフステージの方がいるが、等しく健診を受けられるような制度設定について考えていくことが必要ではないか。

(事務局) 福祉部では障がい者の支援としてホームヘルパーや施設への通所支援を行っている。健康診断については、健康子ども未来部で事業を進めている。

(委 員) 医療従事者の立場からすると、重症化してから治療するのは困難なケースがあり、健診を受診して早期発見、早期治療を行うことが重要である。障がい者の方や在宅で療養している方は通院する機会が少ないため、治療することが難しく、重症化してしまうケースがあるため、健診の機会を設けることが重要である。

(委 員) 昨年度業者委託による受診勧奨を行ったとの事だが、受診率はどのくらい良くなったのか。

(事務局) 昨年度の健診受診率は、現在のところ確定しておらず暫定値にはなるが、40.0%で昨年度に比べ 2 ポイント増加している。

(委 員) 健康管理分野で若年健診の事が追加になっているが、目標値に加えないのはなぜか。また、身体活動・運動分野で「関係機関と連携しながら」とあるが、具体的に記載して意図や方向性を示しても良いのではないか。

(事務局) 若年健診の指標は健康づくり計画に記載していないが、上田市国民健康保険のデータヘルス計画の中で早期介入保健指導事業として記載している。上田市の現状として若年者の肥満などの課題があるため、力を入れて取り組んでいきたい。

(事務局) 身体活動・運動分野の関係機関について、具体的に記載できていなかった。運動に関する関係機関とは引き続き連携していきたい。庁内においても様々な課でウォーキング事業を行っており、市で実施している情報の発信に加えて関係機関との連携について検討して具体的に記載したい。

(委 員) 感染症に対する予防で、子宮頸がんや新型コロナウイルス、インフルエンザ、带状疱疹など様々なワクチンがあるが、接種率が上がると重症化予防に繋がるため、ワクチン接種率の向上についても計画の中に入れるべきではないか。

(事務局) 健康管理分野の現状と課題の中で、「様々な種類の予防接種を実施しており、感染症のまん延予防に大きな成果を上げています。」と記載している。

(会 長) 身体活動・運動分野について意見あるか。

(委 員) 新型コロナウイルスの流行を経験する中で関係機関との連携の必要性を感じた。関係機関の啓発についてはポスターの配布等連携していく必要があるのではないか。

また、若い世代についての内容が記載されているが、具体的にどの年代や何歳なのか。

上田市内には運動できる場所がたくさんあるとの事だが、学生には情報が行き届いていない。

(委員) 計画の中で分析や目標について記載あるが、具体的な方策がないと達成することが難しいため今後の取り組みを検討していく必要があると考える。

また、スポーツ関係については、スポーツに興味のない子どもに対する働きかけについて今後検討していく必要がある。市民の中には体を動かす機会が欲しいと思っている方も多くいるため、健康づくりとスポーツをリンクさせて活動するべきだと考える。

(会長) 啓発についての提案であったが、子どもに対する啓発と親から子どもに推奨するような啓発活動を行う必要があると考える。

スポーツ協会の方との連携も含めて啓発活動について力を入れていく必要があると考える。

(委員) 健康管理分野の健診未受診の理由として、「治療などにより医師の診断を受けていた」という理由が4割を占めているが、上田市は定期的に通院されている方の健診についてどのように考えているか。定期的に通院されている方にはアンケート調査を行うことで仕分けをすることができるのではないかと。

(事務局) 定期的に通院されている方も特定健診の対象となり、受診勧奨を行っている。定期的な通院がある場合でも、治療中の項目以外の検査を行うことで全身の健康状態を把握することができる。

アンケート調査で、健診を受けない理由として「治療などにより医師の診断を受けていた」という回答が多くなっていたが、医療機関と連携して受診勧奨を行っていききたい。

(委員) 受診勧奨通知の中に、「通院中でも健診を受診してください」という文章は記載されているのか。

(事務局) 年に2回健診未受診者に受診勧奨を行っているが、その中では記載してある。

(委員) 先日、上田市でゲームの大会が開催され、1000人以上が集まった。そのようなイベントに合わせて啓発すると良いのではないかと。ゲーム等もツールの1つと考えて活用すると良いのではないかと。

○事務局から説明

(ウ) ころろ分野

事務局からころろ分野の現状と課題、目標、市民の取組、市の取組の概要について説明

(エ) 親と子分野

事務局から親と子分野の現状と課題、目標、市民の取組、市の取組の概要について説明

・(ウ)、(エ) についての質疑

(委員) ころろ分野で睡眠がとれていない方が多くいるとあるが、なぜとれていないのか分かっているのか。

(事務局) 具体的な理由については調査できていない。

国での調査結果があるが、若い世代ではスマートフォンやインターネットの使用、働き世代では勤務の状況によって睡眠を削らざるを得ないなどの背景が考えられる。

(委員) 今年の3月に内閣府から子ども若年者の意識と生活に関する調査が行われており、引きこもりが全国で146万人に達しているとのことである。上田市の現状は把握しているのか。

また、上田市において不登校者数のデータは把握しているのか。

(事務局) 不登校者数等具体的な数値は持ち合わせていないが、長野県の動向のとおり上田市でも増加している。施策として不登校のガイドラインなども定め学校と連携をとっており、校内や校外に中間教室を設け、学校に通えない生徒にも中間教室にきてもらえるようにして

いる。

(委員) 教育の中では健康も重要な部分であるが、不登校者数や特殊教室で対応している生徒は増加しており、若い世代が大人になって社会を構築する際に、今後の社会がどのようなようになっていくか不安な部分がある。重要な課題だと思うので市としても取り組んでいただきたい。

(委員) ところ分野で特に中高生の自殺対策が重要であると思うが、相談したい時に相談が可能な窓口が分からず、どこに相談したら良いのか分からない方が非常に多いと感じる。一般の学生等に向けて相談できる窓口を具体的に紹介する仕組みを考えていただきたい。若い世代であれば SNS を活用して相談できる仕組みがあると良いのではないかと思う。

(事務局) 学生を含む若い世代の自殺対策として上田市内の小中学校で SOS の出し方を教えたり、スクールカウンセラーの配置を進めている。

厚生労働省のホームページに SNS を活用して相談できる仕組みがあり、実際に、受けた相談が連携により市町村につながるなどの事例もあり、どこに相談をしても身近に支援に繋がるような体制ができています。しかし、自殺で亡くなる方は毎年いるため様々な方策を考えながら取り組みを続けることは重要である。

(委員) 小さい子どもがいる子育て世代であるが、仕事をしながら家事や育児をしていると自分自身が休める時間を作ることが難しい。自分自身が休める時間を作ろうと思った時に、パートタイム労働だと給料が減給してしまう。子育て世代だと、子どもの体調不良等で休暇をとらなければならない状況が多々あるので、企業で率先してリフレッシュ休暇の制度があると良いのではないか。

(事務局) 子育て・子育て支援課では第2次子ども・子育て支援事業計画を策定し、各種事業を行っている。その施策の中で、子育て相談体制の充実として、子育て支援センターを市内13か所設けており、相談や母親同士の情報交換の場を提供している。

ワークライフバランスの推進については、庁内に関係部署があり企業への働きかけや男女共同参画、父親の子育て参加の推進や女性の就職相談を進めている。子育て支援センターでも就職相談を行っており、ワークライフバランスの視点も考えながら事業を行っている。今後も連携を取りながら引き続き実施していく。

(委員) ところ分野でキーワードとしてゲートキーパーが出ているが、認知度が低いので注釈を入れる必要があると考える。

また、若い世代の心の問題が我が国で非常に大きな問題になっており、関係機関との連携が重要だと考える。自殺予防の推進として自殺対策計画が出てきているが、健康づくり計画のところ分野との位置関係はどのように整理しているのか。

(事務局) 自殺対策計画は、自殺対策基本法に基づき各市町村で策定しなければならないものであり、国の計画策定方法の手引きに則って策定している。上田市の場合は、自殺対策連携会議にて関係団体と具体的な事業を列挙して、上田市の現状に即して取り組みをすすめている。

健康づくり計画には、検討した結果ゲートキーパーの部分と自殺や死亡率について記載。

(委員) 計画を見た際に、自殺対策計画と健康づくり計画の関係について注釈や補足があると分かりやすいと感じた。

(委員) 低出生体重児の割合が増加しているとのことだが、女性の体重管理について妊娠してからでは遅いという状況が多い。学生の性教育の中に体重管理についての内容も含め、自分の将来の子どもにどのような影響があるのか伝えていくべきではないか。

(事務局) 健康づくり計画の中に将来妊娠を考えているカップルや女性に対してプレコンセプションケア、小学生、中学生に対して命の学級を行っている。今後、内容の充実を図っていきたい。

(会 長) 上田地域で子育てをしたいという親の割合が高いとの事だが、上田に来て子どもを産みたい、子育てをしたい等、子育てがしやすい地域を作るための目標や方策も含めるとより地域が活性化されるのではないか。

(事務局) 意見を参考に、今後取り組みを含め検討していきたい。

4 その他(事務局)

第3回健康づくり推進協議会 11月13日(月)午後1時30分からとする。

第4回健康づくり推進協議会 1月22日(月)午後1時30分からとする。

5 閉会(事務局)